

[ 人と自然との豊かな触れ合いの確保 ]

#### 4.1.8 景観(主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観)

##### 4.1.8.1 調査結果の概要

###### 1) 調査の手法

###### a) 調査すべき情報

###### i) 主要な眺望点の状況

自然的構成要素である景観資源を眺望する主要な眺望点の状況を把握するため、視点の場となる主要な眺望点の位置及び分布状況を調査した。

###### ii) 景観資源の状況

景観資源の状況を把握するため、眺望対象となる景観資源の位置及び分布状況を調査した。

###### iii) 主要な眺望景観の状況

主要な眺望点からの景観資源の眺望の変化を把握するため、主要な眺望点から景観資源を眺望する場合の眺望景観の状況を調査した。

###### b) 調査の基本的な手法

###### i) 主要な眺望点の状況

調査の基本的な手法は、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析とした。

###### ii) 景観資源の状況

調査の基本的な手法は、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析とした。

iii) 主要な眺望景観の状況

調査の基本的な手法は、現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析とした。現地調査は写真撮影によった。主要な眺望景観の状況の現地調査の手法を表 4.1.8-1 に示す。

c) 調査地域・調査地点

i) 主要な眺望点の状況

調査地域は、主要な眺望点の状況を適切に把握できる地域とした。調査地点は、景観の特性を踏まえ、調査地域における主要な眺望点を適切かつ効果的に把握できる地点とした。

ii) 景観資源の状況

調査地域は、景観資源の状況を適切に把握できる地域とした。調査地点は、景観の特性を踏まえ、調査地域における景観資源を適切かつ効果的に把握できる地点とした。

iii) 主要な眺望景観の状況

調査地域は、主要な眺望景観の状況を適切に把握できる地域とした。調査地点は、景観の特性を踏まえ、調査地域における主要な眺望景観を適切かつ効果的に把握できる雷山、天山、古湯城跡及び金山とした。調査地点を図 4.1.8-1 に示す。

なお、図 4.1.8-1 に示す浮嶽及び権現山については、可視領域に含まれているが樹木により対象事業実施区域の方向を眺望することができないことから調査地点としては選定しなかった。また、羽金山については、可視領域に含まれているが、雷山と同様の対象事業実施区域の北側に位置しているため、雷山で代表させることとし、調査地点としては選定しなかった。一方、脊振山については、可視領域に含まれているが、対象事業実施区域から約 15km 離れており、主要な眺望景観への影響は小さいと想定されたため、調査地点としては選定し

なかった。

d) 調査期間等

i) 主要な眺望点の状況

調査期間等は、文献その他の資料によるため特に限定しなかった。

ii) 景観資源の状況

調査期間等は、文献その他の資料によるため特に限定しなかった。

iii) 主要な眺望景観の状況

調査期間は、平成 12 年度～14 年度とした。調査時期は、春季、夏季、秋季及び冬季の四季とした。また、調査時間帯は昼間とした。主要な眺望景観の状況の現地調査の実施状況を表 4.1.8-2 に示す。

表 4.1.8-1 主要な眺望景観の状況の現地調査の手法

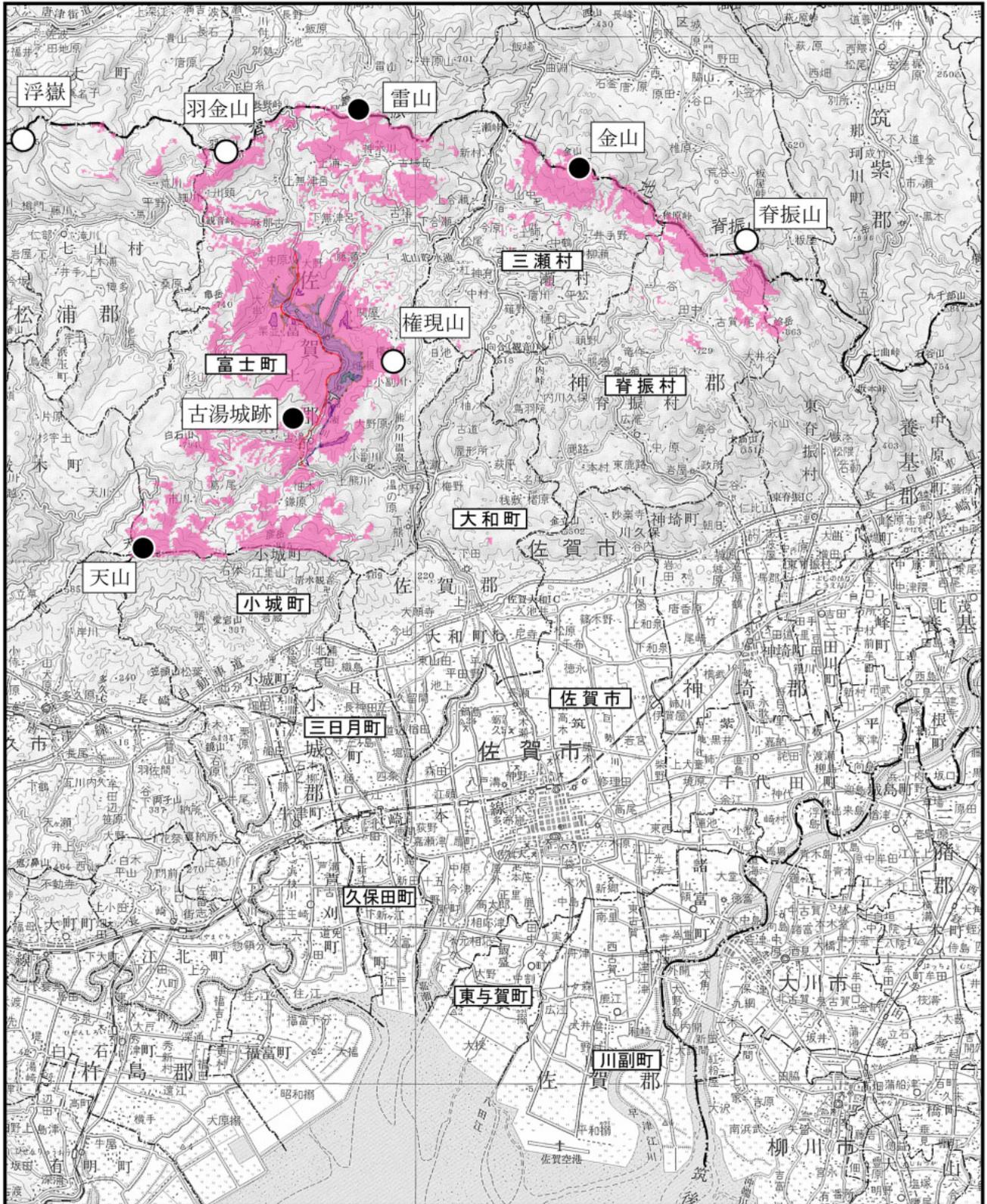
調査すべき情報		現地調査手法	調査地域・調査地点	現地調査期間等
主要な眺望景観の状況	主要な眺望点から景観資源を眺望する場合の眺望景観の状況	写真撮影	表 4.1.8-2 及び図 4.1.8-1 参照	調査期間 :平成 12 年度～14 年度 調査時期 :春季、夏季、秋季、冬季 調査時間帯:昼間

表 4.1.8-2 主要な眺望景観の状況の現地調査の実施状況

調査すべき情報	主要な眺望景観調査地点		標高 (m)	調査期間等	景観資源	影響要因
主要な眺望景観の状況	山岳	雷山	995	春季 平成 13 年 5 月 20 日(日) 平成 14 年 6 月 1 日(土) 夏季 平成 13 年 8 月 29 日(水) 平成 14 年 9 月 2 日(月) 秋季 平成 12 年 10 月 27 日(金) 平成 14 年 11 月 18 日(月) 冬季 平成 13 年 2 月 17 日(土)	三瀬高原、杉山高原	原石山の跡地の存在、土捨場の跡地の存在、道路の存在、ダム の 供 用 及 び 貯 水 池 の 存 在
		天山	1,046	春季 平成 13 年 5 月 20 日(日) 平成 14 年 5 月 27 日(月) 夏季 平成 13 年 8 月 29 日(水) 平成 14 年 9 月 2 日(月) 秋季 平成 12 年 10 月 27 日(金) 平成 14 年 11 月 9 日(土) 冬季 平成 13 年 2 月 17 日(土)		
	展望地	古湯城跡	417	春季 平成 14 年 6 月 1 日(土) 夏季 平成 14 年 8 月 9 日(金) 秋季 平成 14 年 11 月 9 日(土)	三瀬高原	
	山岳	金山	967	夏季 平成 14 年 8 月 22 日(木) 秋季 平成 14 年 11 月 9 日(土)	三瀬高原	

注)人の静視野<sup>\*1</sup>は左右約 60 度、上下約 50 度であり、6×7 版カメラで 75mm レンズを用いた時の画角とほぼ等しいため、写真撮影には、6×7 版カメラ 75 mm レンズ(左右 50 度、上下 43 度)を使用した。  
 資料:河川風景デザイン(島谷幸宏編著 1994 年 9 月)<sup>\*2</sup>をもとに作成

\*1:人が顔を動かさずに見ることができる範囲は静視野と呼ばれている。  
 \*2:該当する引用・参考文献の番号を示し、項末に一覧を示す。



凡 例

- |  |        |  |            |  |                                 |
|--|--------|--|------------|--|---------------------------------|
|  | ダム堤体   |  | 付替国道       |  | トンネル                            |
|  | 貯水予定区域 |  | 付替国道(未完成)  |  | 橋                               |
|  | 原石山    |  | 付替県道       |  | 市町村界                            |
|  | 土捨場    |  | 付替県道(未完成)  |  | 主要な眺望<br>景観調査地点                 |
|  | 代替地    |  | 付替町道       |  | 選定されな<br>かった主要な<br>眺望景観<br>調査地点 |
|  | 施工設備   |  | 付替町道(未完成)  |  | 付替林道                            |
|  |        |  | 付替林道(未完成)  |  | 工事用道路                           |
|  |        |  | 工事用道路(未完成) |  | 可視領域                            |



1:200,000

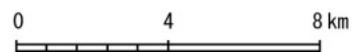


図4.1.8-1  
景観調査地点

## 2) 調査結果

### a) 主要な眺望点の状況

#### i) 雷山

雷山は、福岡県と佐賀県の県境に位置しており、山頂の標高は 955m である。頂上からは、脊振山系等が一望できる。

#### ii) 天山

天山は、山頂の標高が 1,046m であり、山頂からは、玄界灘をはじめ、佐賀平野、有明海等 360 度の景色を楽しめる。また、山頂一体は、一面に広がる草原で、高山植物が多く生育している。

#### iii) 古湯城跡

古湯城は、延元元年(1336 年)、福岡県の多々良浜の戦いで勇戦した阿蘇惟直の弟、九郎惟成の侍士原隼人が築城したと伝えられている。現在は、自然石の碑、礎石が散財しているが、城山公園として整備され、古湯温泉の観光名所になっており、古湯温泉街を一望できる。

#### iv) 金山

金山は、福岡県と佐賀県の県境に位置しており、山頂の標高は 967m である。脊振山系が花崗岩の地質から成り立っている中で、金山付近は結晶片岩の層が出ており、古生代(約 3 億年前)には海の底であったと考えられる。頂上からの展望はよく、江戸時代には鍋島藩の番所があったと伝えられている。

## b) 景観資源の状況

### i) 三瀬高原

三瀬高原は、福岡県と佐賀県の県境付近に位置しており、脊振山系の山間にある標高約 300m～約 580m、面積約 41km<sup>2</sup>の高原である<sup>2)3)</sup>。福岡市と佐賀市を結ぶ一般国道 263 号が三瀬高原を縦断している。また、三瀬高原内には、北山ダム、どんぐり村等が分布している。

### ii) 杉山高原

杉山高原は、富士町、巖木町及び七山村をまたぐ、標高約 450m～約 800m、面積約 31km<sup>2</sup>の高原である<sup>2)3)</sup>。杉山高原内には、杉山高原キャンプ場がある。

## c) 主要な眺望景観の状況

表 4.1.8-2 に示す調査期間等のうち、主要な眺望点及び主要な眺望景観の特性を考慮し、紅葉の時期である秋季の調査結果のうち最新のものである平成 14 年度の調査結果を採用した。

### i) 雷山

写真 4.1.8-1(1)は雷山から南方向の眺望景観である。左手方向に景観資源である三瀬高原(非火山性高原)を、右手方向に景観資源である杉山高原(非火山性高原)を望むことができる。手前から奥まで、山々の尾根線が幾重にも織り成しており、遠方まで見渡せるため、見通しが良いという感じを与える。

### ii) 天山

写真 4.1.8-2(1)は天山から北東方向の眺望景観である。手前に景観資源である杉山高原(非火山性高原)を、奥に景観資源である三瀬高原(非火山性高原)を望むことができる。手前から遠方に、尾根線が折重なり遠方のなだらかなスカイラインへ繋がっていくため、見通しがよく、気持ちのよい印象を与える。

### iii) 古湯城跡

写真 4.1.8-3(1)は古湯城跡から東南東方向の眺望景観である。景観資源である三瀬高原(非火山性高原)を望むことができる。手前の古湯温泉街と奥の山々が調和しており、やすらぎを与える眺望景観である。

iv) 金山

写真 4.1.8-4(1)は金山から南西方向の眺望景観である。景観資源である三瀬高原(非火山性高原)を望むことができる。北山湖の湖面の美しさとなだらかな山々の雄大さが調和しており、美しく、やすらぎを与える景観である。

#### 4.1.8.2 予測の結果

##### (1) 予測の手法

予測対象とする主要な眺望点、景観資源、主要な眺望景観及び影響要因は、表 4.1.8-1 に示すとおりであり、影響要因は「土地又は工作物の存在及び供用」とし、  
 改変の程度と眺望景観の変化に区分した。

表 4.1.8-1 予測対象とする主要な眺望点、景観資源、主要な眺望景観及び影響要因

予測対象		影響要因	土地又は工作物の存在及び供用	
			改変の程度	眺望景観の変化
			主要な眺望点及び 景観資源の改変の 程度	主要な眺望点から の眺望景観の変化
主要な眺望点	雷山			
	天山			
	古湯城跡			
	金山			
景観資源	三瀬高原			
	杉山高原			
主要な眺望景観	雷山			
	天山			
	古湯城跡			
	金山			

注) : 予測対象とする項目を示す。

### 1) 予測の基本的な手法

予測の基本的な手法は、主要な眺望点及び景観資源の変化については、ダム等の存在及び供用と主要な眺望点及び景観資源の状況を踏まえ、主要な眺望点及び景観資源の改変の程度について、事例の引用又は解析とした。

また、主要な眺望景観の変化については、フォトモンタージュにより、眺望景観の変化及び影響要因の視角の程度の把握とした。フォトモンタージュの作成においては、事業計画をもとに、貯水池の水位は常時満水位の EL.292.5m とした。また、原石山については原石山の跡地法面が道路法面になることから、コンクリート法枠の状態とし、土捨場については裸地の状態とし、道路法面についてはコンクリート法枠の状態を想定した。

影響要因毎の予測の基本的な手法を表 4.1.8-2 に示す。

### 2) 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、景観の特性を踏まえ、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。

影響要因毎の予測地域を表 4.1.8-2 に示す。

### 3) 予測対象時期等

予測対象時期等は、ダム管理が定常状態であり、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。ダム堤体、原石山、土捨場等が景観に及ぼす影響が最大となるのはダム完成直後と想定し、予測対象時期はダム完成直後の秋季とした。

影響要因毎の予測対象時期等を表 4.1.8-2 に示す。

表 4.1.8-2 主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観の予測の手法

影響要因		項目	予測の基本的な手法	予測地域	予測対象時期等
土地又は工作物の存在及び供用	変更の程度		主要な眺望点及び景観資源と事業計画を重ね合わせることで変更の程度を予測した。	調査地域のうち、主要な眺望点及び景観資源に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	ダム完成直後とした。
	眺望景観の変化		フォトモンタージュにより眺望景観の変化及び影響要因の視角の程度を予測した。	調査地域のうち、主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	ダム完成直後の以下の季節とした。なお、選定理由は調査時期と同様とした。 ・雷山: 秋季 ・天山: 秋季 ・古湯城跡: 秋季 ・金山: 秋季

(2) 予測結果

1) 主要な眺望点

主要な眺望点と事業計画を重ね合わせた結果を図 4.1.8-2 に示す。

対象事業の実施により変更される主要な眺望点はないと予測されることから、影響はないと考えられる。

2) 景観資源

景観資源と事業計画を重ね合わせた結果を図 4.1.8-2 に示す。

対象事業の実施により、三瀬高原の一部が変更を受けるが、三瀬高原全体に変更を与えるものではないと予測されることから、影響は小さいと考えられる。

一方、杉山高原は変更を受けないと予測されることから、影響はないと考えられる。

3) 主要な眺望景観

主要な眺望点からの現況の眺望景観及び供用後の眺望景観(フォトモンタージュ)を写真 4.1.8-1~5 に示す。

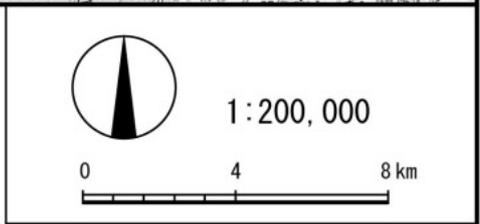
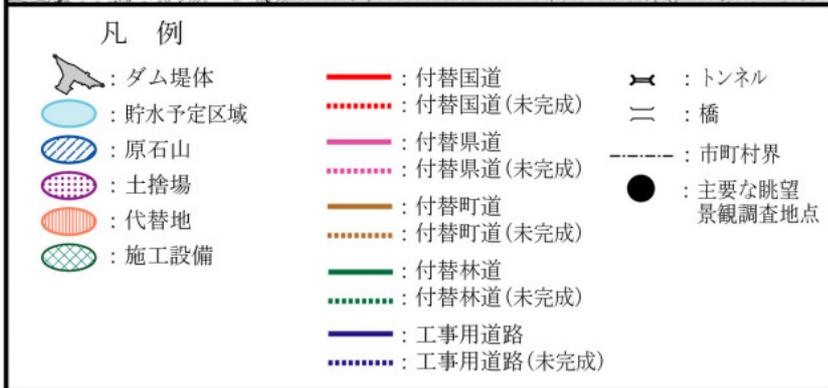
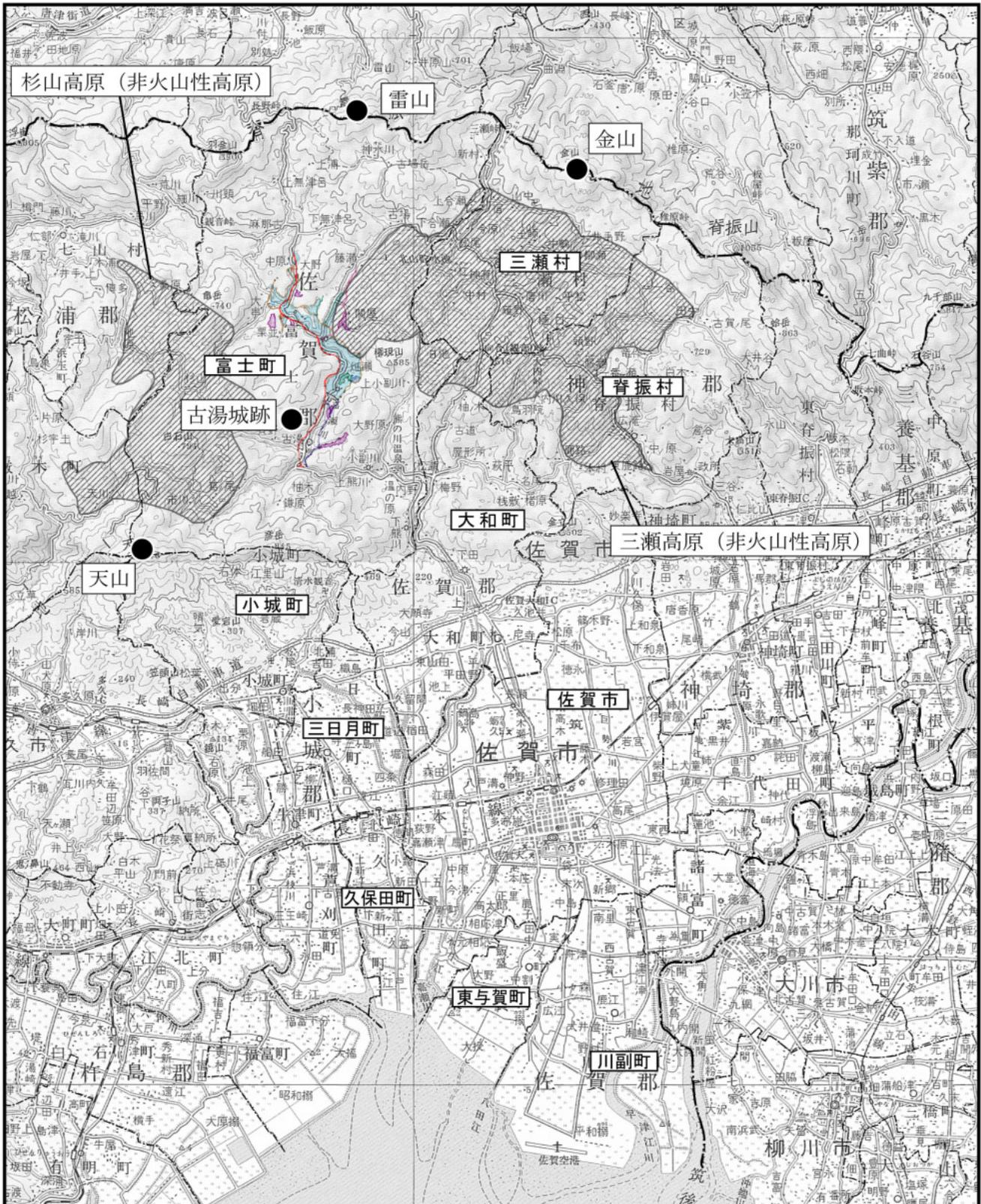


図4.1.8-2  
主要な眺望点及び景観資源と  
事業計画を重ね合わせた結果

a) 雷山

雷山からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 4.1.8-1 に示す。



写真 4.1.8-1(1) 雷山からの眺望景観の状況(現況)



写真 4.1.8-1(2) 雷山からの眺望景観の状況(供用後)

雷山からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 4.1.8-1(3)及び表 4.1.8-3 に示す。



写真 4.1.8-1(3) 雷山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

雷山から三瀬高原及び杉山高原を望むとき、原石山、菖蒲土捨場、栗並土捨場、道路法面 1～3 が眺望できる。

原石山の視角は長辺 0.6 度、短辺 0.3 度であり、菖蒲土捨場の視角は長辺 1.3 度、短辺 0.6 度であり、栗並土捨場の視角は長辺 1.8 度、短辺 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、点状又は線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測される。また、道路法面 1 の視角は長辺 3.4 度、短辺 0.6 度であり、道路法面 2 の視角は長辺 3.1 度、短辺 0.6 度、道路法面 3 の視角は長辺 3.8 度、短辺 0.5 度であり、フォトモンタージュで示すように、線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測される。

表 4.1.8-3 雷山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原 杉山高原	原石山	長辺	0.6
		短辺	0.3
	菖蒲土捨場	長辺	1.3
		短辺	0.6
	栗並土捨場	長辺	1.8
		短辺	0.6
	道路法面 1	長辺	3.4
		短辺	0.6
	道路法面 2	長辺	3.1
		短辺	0.6
	道路法面 3	長辺	3.8
		短辺	0.5

b) 天山

天山からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 4.1.8-2 に示す。



写真 4.1.8-2(1) 天山からの眺望景観の状況(現況)



写真 4.1.8-2(2) 天山からの眺望景観の状況(供用後)

天山からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 4.1.8-2(3)及び表 4.1.8-4 に示す。

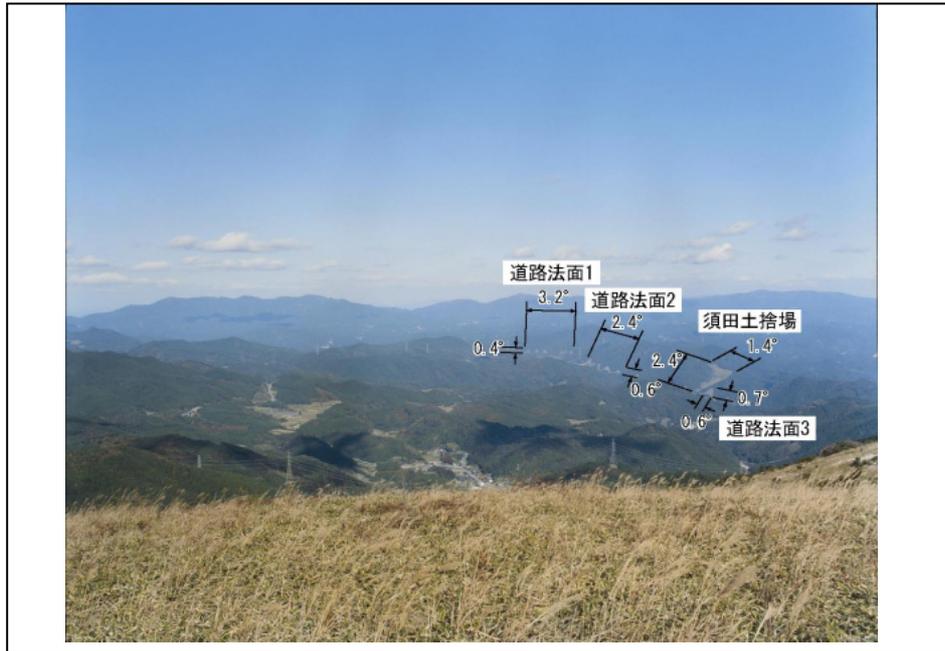


写真 4.1.8-2(3) 天山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

天山から三瀬高原及び杉山高原を望むとき、須田土捨場及び道路法面 1～3 が眺望できる。

須田土捨場の視角は長辺 2.4 度、短辺 1.4 度であり、フォトモンタージュで示すように、面的に認識することができ、眺望景観に変化が生ずると予測される。一方、道路法面 1 の視角は長辺 3.2 度、短辺 0.4 度であり、道路法面 2 の視角は長辺 2.4 度、短辺 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測される。また、道路法面 3 の視角は長辺 0.7 度、短辺 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、点状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測される。

表 4.1.8-4 天山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原 杉山高原	須田土捨場	長辺	2.4
		短辺	1.4
	道路法面 1	長辺	3.2
		短辺	0.4
	道路法面 2	長辺	2.4
		短辺	0.6
	道路法面 3	長辺	0.7
		短辺	0.6

c) 古湯城跡

古湯城跡からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 4.1.8-3 に示す。



写真 4.1.8-3(1) 古湯城跡からの眺望景観の状況(現況)



写真 4.1.8-3(2) 古湯城跡からの眺望景観の状況(供用後)

古湯城跡からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 4.1.8-3(3)及び表 4.1.8-5 に示す。



写真 4.1.8-3(3) 古湯城跡からの眺望景観における影響要因の視角の程度

古湯城跡から三瀬高原を望むとき、須田土捨場及び道路法面 1～2 が眺望できる。須田土捨場の視角の長辺は 1.6 度、短辺は 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、線状にのみ認識することができ眺望景観の変化は小さいと予測される。一方、道路法面 1 の視角の長辺は 8.2 度、短辺は 3.2 度であり、道路法面 2 の視角の長辺は 4.0 度、短辺は 2.0 度であり、フォトモンタージュで示すように、面的に認識することができ、眺望景観に変化が生ずると予測される。

表 4.1.8-5 古湯城跡からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原	須田土捨場	長辺	1.6
		短辺	0.6
	道路法面 1	長辺	8.2
		短辺	3.2
	道路法面 2	長辺	4.0
		短辺	2.0

d) 金山

金山からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 4.1.8-4 に示す。



写真 4.1.8-4(1) 金山からの眺望景観の状況(現況)



写真 4.1.8-4(2) 金山からの眺望景観の状況(供用後)

金山からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 4.1.8-4(3)及び表 4.1.8-6 に示す。



写真 4.1.8-4(3) 金山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

金山から三瀬高原を望むとき、栗並土捨場、菖蒲土捨場及び道路法面が眺望できる。

栗並土捨場の視角の長辺は 0.7 度、短辺は 0.2 度であり、道路法面の視角は長辺 0.6 度、短辺 0.2 度であり、菖蒲土捨場の視角の長辺は 0.7 度、短辺は 0.2 度であり、フォトモンタージュで示すように、点状にのみ認識することができ眺望景観の変化は小さいと予測される。

表 4.1.8-6 金山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原	栗並土捨場	長辺	0.7
		短辺	0.2
	菖蒲土捨場	長辺	0.7
		短辺	0.2
	道路法面	長辺	0.6
		短辺	0.2